3・11 被災地への想いをそれぞれのホールが形に

県内で「アリーナ」5店舗を経営する三慶商事（本社／さいたま市）では3・11を風化させたくないとの想いから、「ずっと忘れない」をテーマに店内に震災関連の写真や追悼文を掲示。励ましの気持ちを込め、「アンパンマンのマーチ」の歌詞を添えた。14時46分には哀悼の意を表すマイクアナウンスをおこなった。

「ニュー丸の内」（本社・栃木県足利市）は全7店舗が14時46分から1分間の黙祷をした。事前に黙祷の趣旨と実施予告を店頭に張り紙を掲示したり、HPにもその内容を掲載。「ニュー丸の内新里店」では、青木幸恵店長が1時間前から遊技客一人ひとりに1分間の黙祷をする旨を声掛けして回った。5分前の14時41分から店内BGMを消した。46分に「ご協力頂けるお客様は、ご遊技の手を休め、46分の合図と共に黙祷して頂ければ幸いです」のアナウンスを合図に黙祷を捧げた。およそ4分の1の遊技客も黙祷したという。

お知らせ

東日本大震災から1年を迎えることから、当ホールではお亡くなりになられた方々へ哀悼の意を表すとともに被災地の1日も早い復興をお祈り致します。

平成24年3月11日［日］

ネオン灯、看板等の外壁照明を終日消灯致します。

お亡くなりになられた犠牲者の方々へ、黙祷を捧げたいと思います。

ご協力頂けるお客様は3月11日［日］14時46分になりましたら、ご遊技の手を休め合図と共に黙祷して頂ければ幸いです。
ご協力よろしくお願い申し上げます。

丸の内グループ

関東で22店舗を経営するNEXUS（本社／群馬県高崎市）では、全店でBGMを止めて営業した。都内の「Dステーション新小岩店」では震災発生時刻の2分前、14時44分に震災の犠牲者に対して追悼の意を表すため、黙祷の協力を店内アナウンスで呼びかけた。お客の中には遊技の手を止め、黙祷する人も見られた。手が空いているスタッフも黙祷を捧げた。

宮城県多賀城市で「夢屋多賀城店」が津波に襲われ、天井まで浸水した。経営する夢コーポレーション（本社／愛知県豊橋市）では、多賀城市民とともに復興支援活動の輪を広げようと、チャリティーフリーマーケットを企画・運営する「多市楽座」に呼びかけ、3月10日に多賀城駅横の空き地でフリーマーケットを開催。11日には多賀城市のほか、奈良市、太宰府市が合同で開催した「復興の灯」の運営に本社と現地スタッフ約45人がボランティアとして参加。小学生から高校生までがメッセージを書いた灯籠の設営や、ロウソクの点火などを行った。このほか、10日から11日にかけて、宮城県亘理町でボランティア活動を実施。本社と現地スタッフ約20名が団子汁の炊き出しを行ったほか、熱風船を飛ばして震災の被害者への追悼の意を表した。

「ゆたか」の屋号でホールを展開するゆたか（本社／東京都大田区）では、店舗を臨時休業し、追悼の意を示した。店頭の入口には、臨時休業を知らせるポスターを貼りだした。

愛知県や東京に出店する星和（本社／愛知県一宮市）では、震災時間の14時46分、東日本大震災で被害にあった人たちへの追悼の意を表して、店内のスタッフと遊技客が黙祷をささげた。「ミカド田無店」（東京都）では、2時46分の2分前から店内BGMを止めて黙祷に備えた。事前にスタッフたちが来店客に事情を説明し、黙祷への参加もお願いしてまわった。時間がくると遊技を中断し、その場に立ち上がって黙祷したり、島端まで出て黙祷する客らの姿もあった。遊技後、カウンターで景品交換をする際には募金箱に寄付する客の姿も多くみられた。ホールスタッフで親族が被災したという野呂文康さんは「震災で親族を亡くした者として、星和の業界を変えるという思いに感謝。参加できて良かったです」と話す。金子博昭次長は「今回のことはサービス業として正しいのかどうか私には分かりませんが、亡くなった方への追悼が出来たことは、大変良かったと思っている。今後も何か協力できることを探して行動に移していきたい」と話した。

ネオパチ（本社／兵庫県神戸市）でもグループ3店舗で黙祷を行った。スタッフたちはカウンターの前で黙祷を捧げ、それに遊技中のお客たちもそれに倣った。事前にホームページや店内ポスターなどで3月11日に追悼の意を示すことを告知していた。

広島県を中心にホールを展開するプローバグループ（本社／広島県呉市）でも、グループ全店でネオン・看板照明等を終日消灯した。「フィエラディ プローバ」の駐車場も普段はライトアップされているが（写真右）、11日は闇夜にまぎれていた（写真上）

全国各地でも鎮魂の祈りや催しが

被災地はもとより、全国各地で様々な追悼式が行われた。ホールも追悼の意を示すため、ネオン・看板照明の消灯営業だけでなく、震災が発生した2時46分に黙祷を捧げるところもあった。